

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「君子は義に喩り 小人は利に喩る」～——『論語』里仁第四

3年生は来週から自宅学習期間となります。3年生には最後の通心（信）になるかもしれませんね。さて、2015年6月の公職選挙法改正に続いて、2022年4月1日に改正民法が施行され、選挙権年齢、成人年齢はいずれも20歳から18歳に引き下げられました。

これは若者の独立自尊を促し、社会の活性化を図るためとされています。民法の改正は明治初期以来146年ぶりのことです。

2500年前、古代中国の思想家、孔子は弟子たちとの学びに際し、成人男子を君子と小人に区分し、二者を対比することで人の生きる道を説きました。孔子は言います。

「君子は義に喩り 小人は利に喩る」

君子、即ち真に立派で賢明な人物は、事に当たって「義」を第一に考え、行動するが、つまらない人物、愚者は真っ先に私利私欲に走り、行動すると。

孔子は、その人の「義」への対応、利への対処をもって人物評価の基準にしているのです。非常に厳しい基準ですが、ではいったい「義」とは何なのでしょう？

1900年、アメリカで『武士道』を刊行した新渡戸稲造は同書で、「義」は武士にとって最も厳しい教えであり、裏取引や不正ほど忌み嫌われるものはないと記しています。新渡戸によれば、「義」は正義であり、国、社会に対する成人の責任義務であるのです。時には武士のこどもにも「約束を破るなどもってのほか」と「義」精神に則った言動が求められることもあります。

新渡戸は、孔子の第一の後継者を自任する孟子の「義」に関する考え方も紹介しています。

「義は人の正路なり」

孟子は人が義を守り、実践することは人の正道であり、まして「義」を誹謗することは自暴、即ち自らを暴（そこな）うことであり、「義」を貫こうとしないこと、これを自棄、即ち、自らを棄てることだと述べています。自暴自棄の語源です。成人において「義」を実践しないことは自暴自棄だと警鐘を鳴らしているのです。

我国では、元服という成人儀式が奈良時代以降行われてきました。

ちなみに戦国武将の元服は皆若く、伊達政宗11歳、織田信長13歳、徳川家康14歳という記録が残っています。名を幼名から実名へ変え、精神と体裁の変換を図って一大決意の下、世に出たのです。

成人年齢を18歳に下げることに対して、まだ大人になりきってないのにと心配する向きもありますが、いかがでしょうか。 「致知」7月号 巻頭の言葉 JFEホールディングス名誉顧問 数土 文夫

1961年、アメリカ合衆国第35代大統領J・F・ケネディが就任演説でこのように述べています。

「国があなたのために何をしてくれるか……を問うのではなく…あなたが国のために何をなすことができるのかを問うてほしい。」

と、国や社会に対し、国民として、社会の構成員としての義務の実践を訴えました。

君たちは、ここ県高で成人を迎えることとなります・・・

君たちは・・・この演説を・・・どうとらえますか？

この演説は今の社会や私たち大人にも突き付けられているように感じるの私だけでしょうか。

